

⑧ 細胞集塊辺縁の核の突出

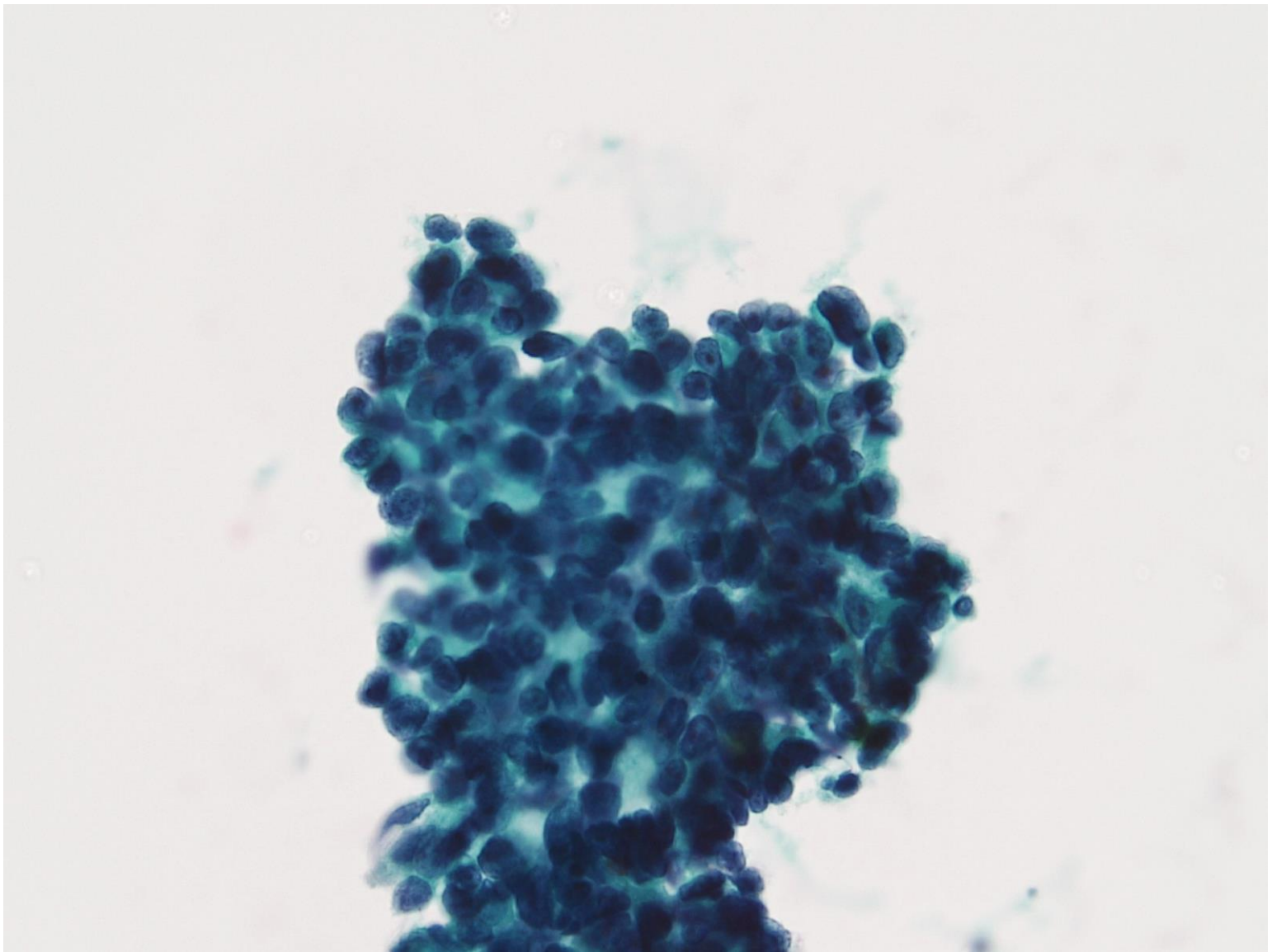
・細胞学的定義

細胞集塊の辺縁から核が突出している。

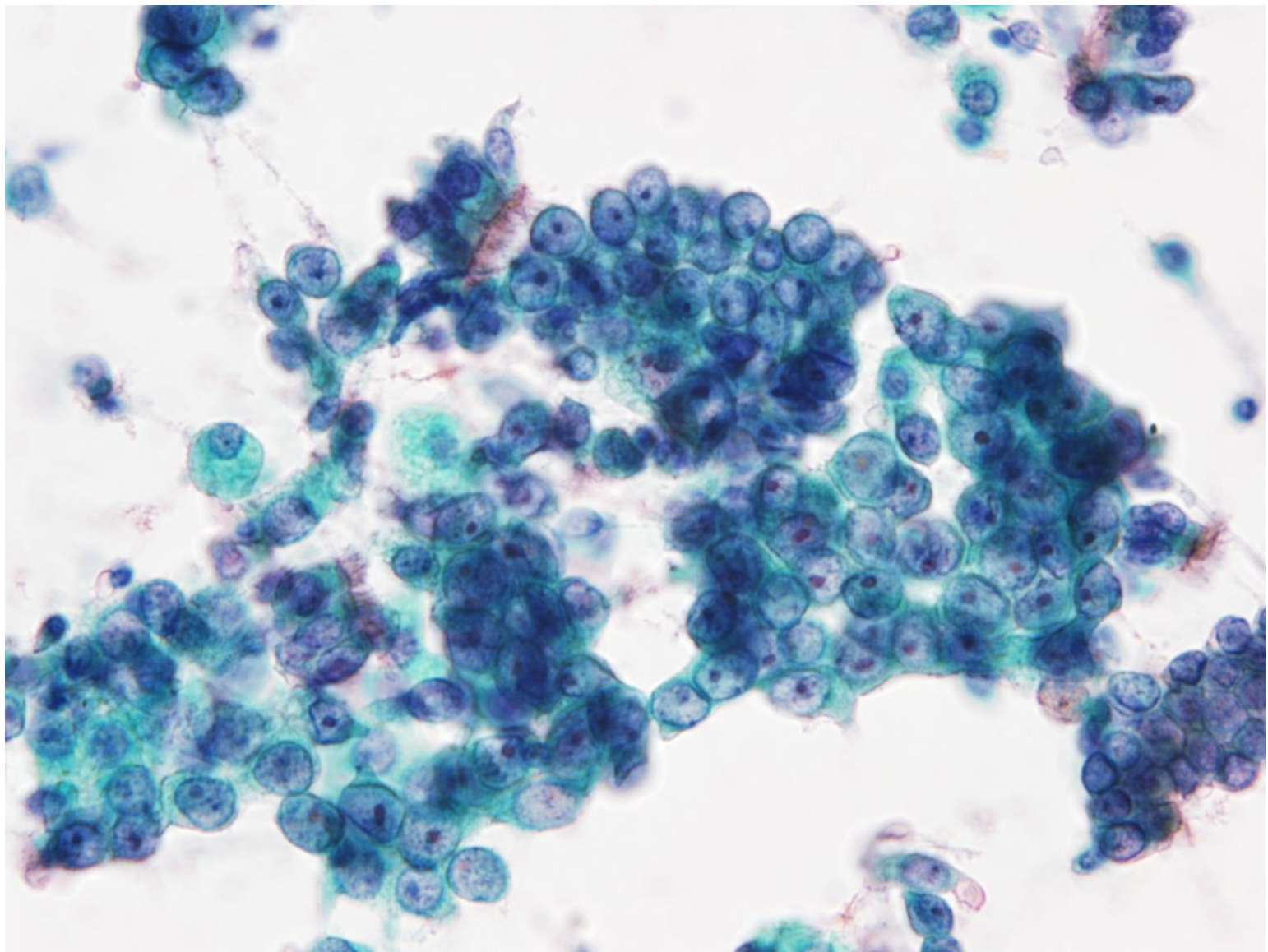
・組織型の推定と補足

組織学的に腺癌では、置換型、腺房型、乳頭型や充実型を示す浸潤性腺癌などで認められることがある。細胞学的には、これらの腺癌の細胞集塊辺縁で核の突出がみられる。この時、最低でも核の半分以上が突出していること、少なくとも集塊辺縁の数か所でみられることが重要である。

ただし、細胞学的に扁平上皮癌でも、核の突出する例もあるので注意しなければならない。

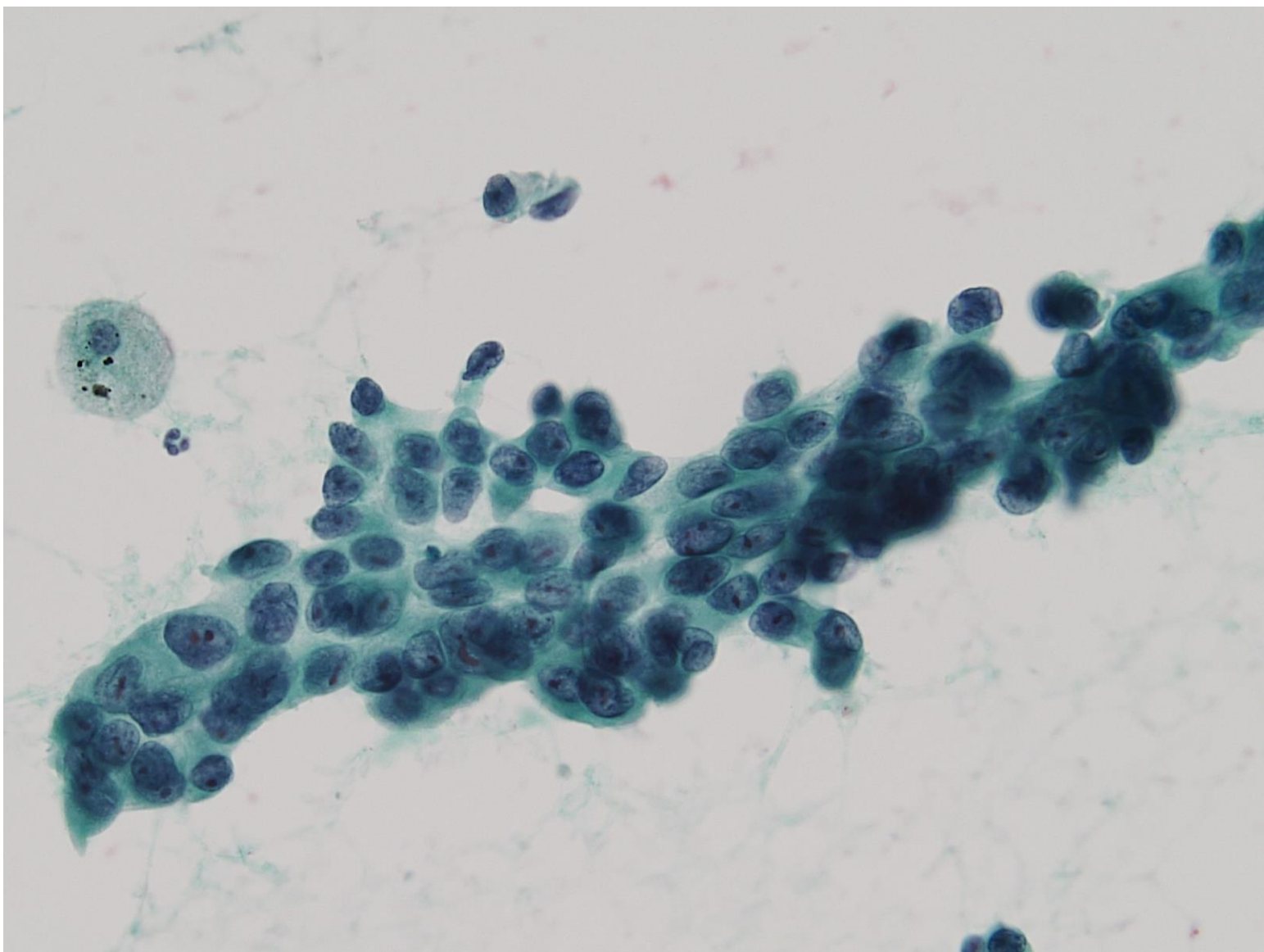


定型例 ⑧-1 (TBAC、腺癌、用語の一致率100%) :
不規則重積性を示す大型細胞集塊がみられる。集塊辺縁では、全周性にわたって、裸核様の腫瘍細胞の突出が多数認められる。



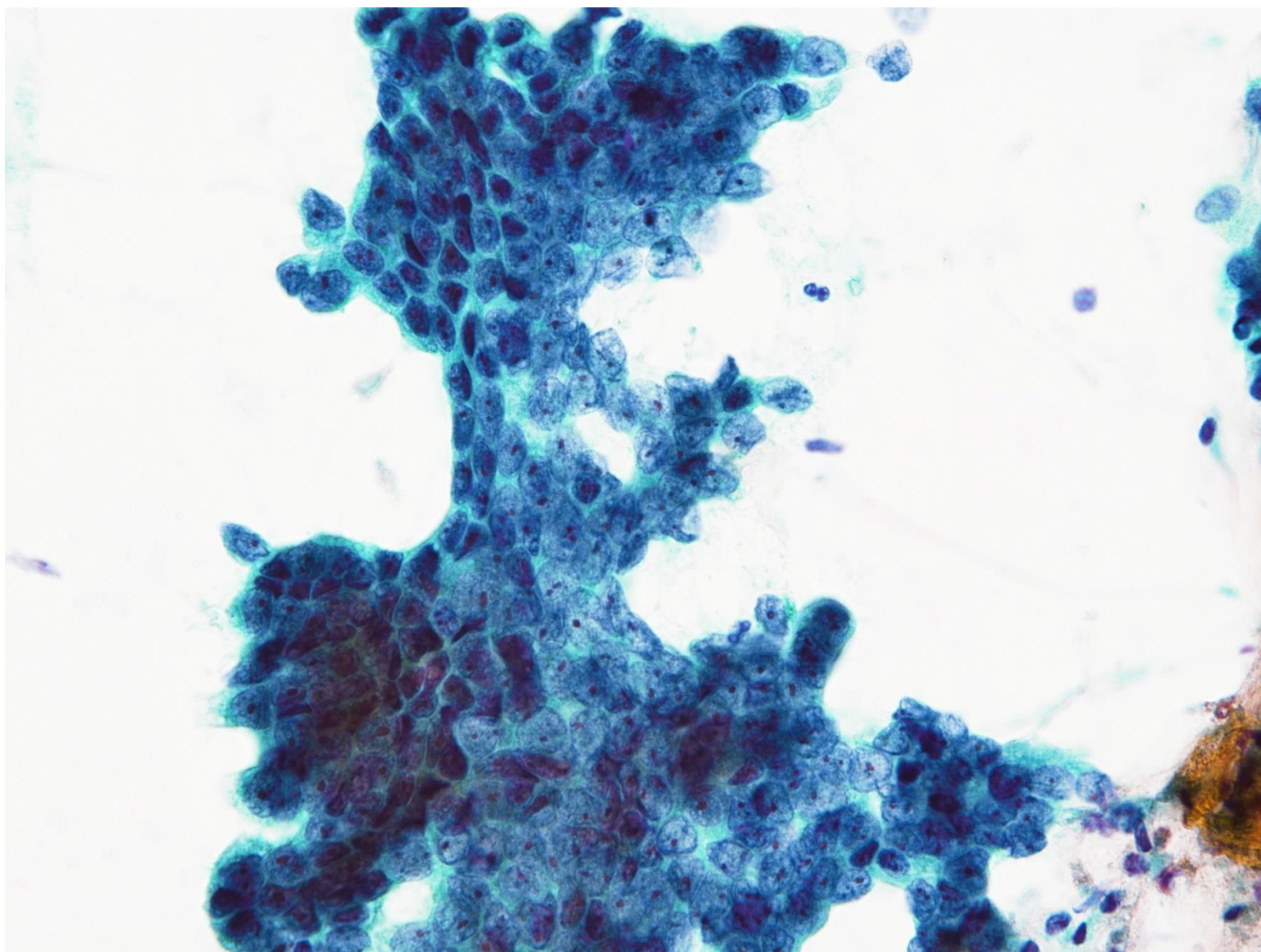
定型例 ⑧-2(擦過、腺癌、用語の一致率100%) :

一部で軽度の重積性をともなう平面的な集塊が認められる。特に、集塊辺縁の上側では列をなして、集塊辺縁を越えて腫瘍細胞の核が突出している。



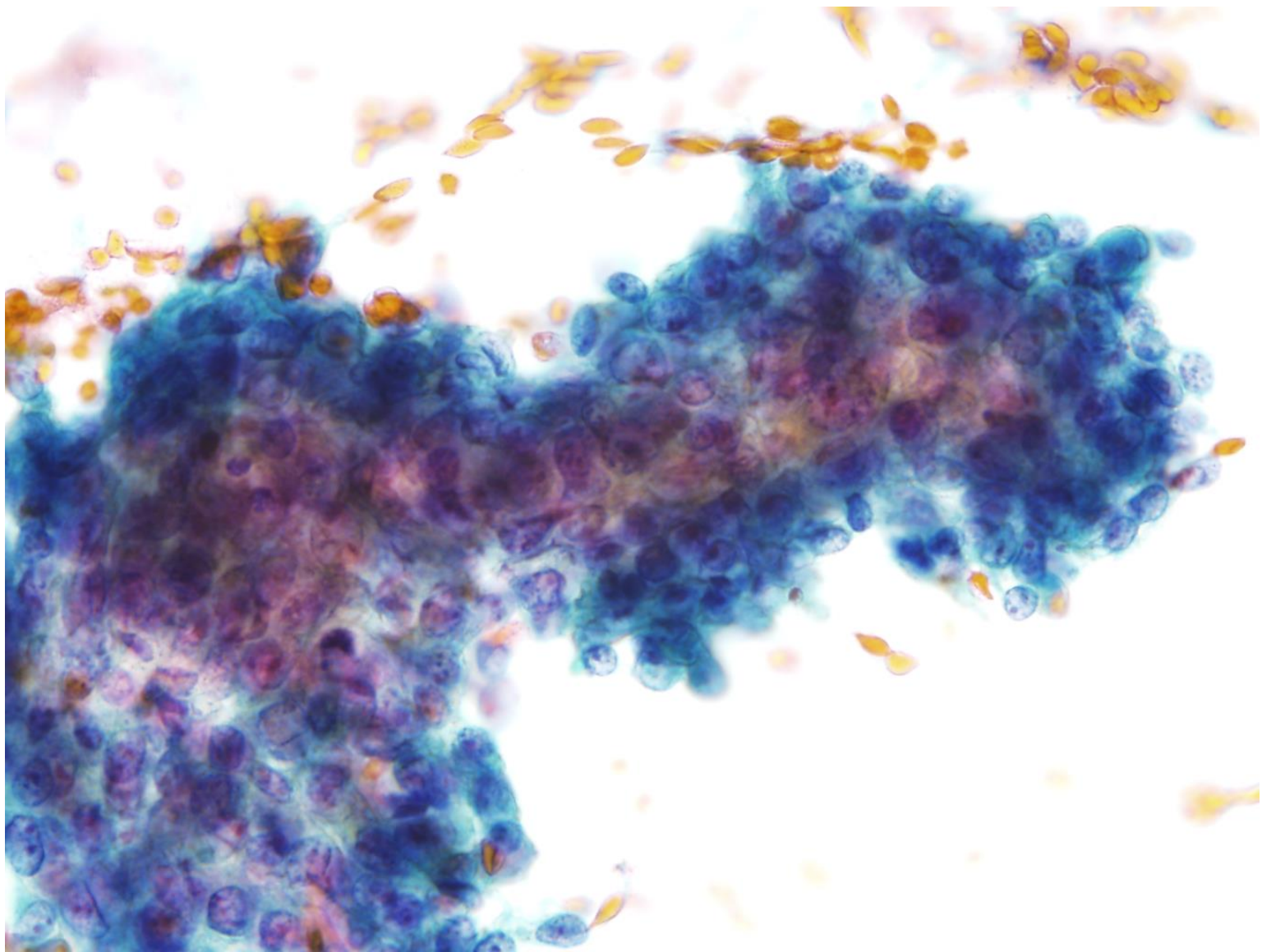
定型例 ⑧-3 (TBAC、腺癌、用語の一致率90%) :

大型細胞集塊の辺縁は、全周性で大体細胞質を追うことが可能である。しかし、集塊辺縁の数か所で核の突出が認められる。本例のように核の突出が少なくとも数か所あれば、「細胞集塊辺縁の核の突出あり」と判定する。

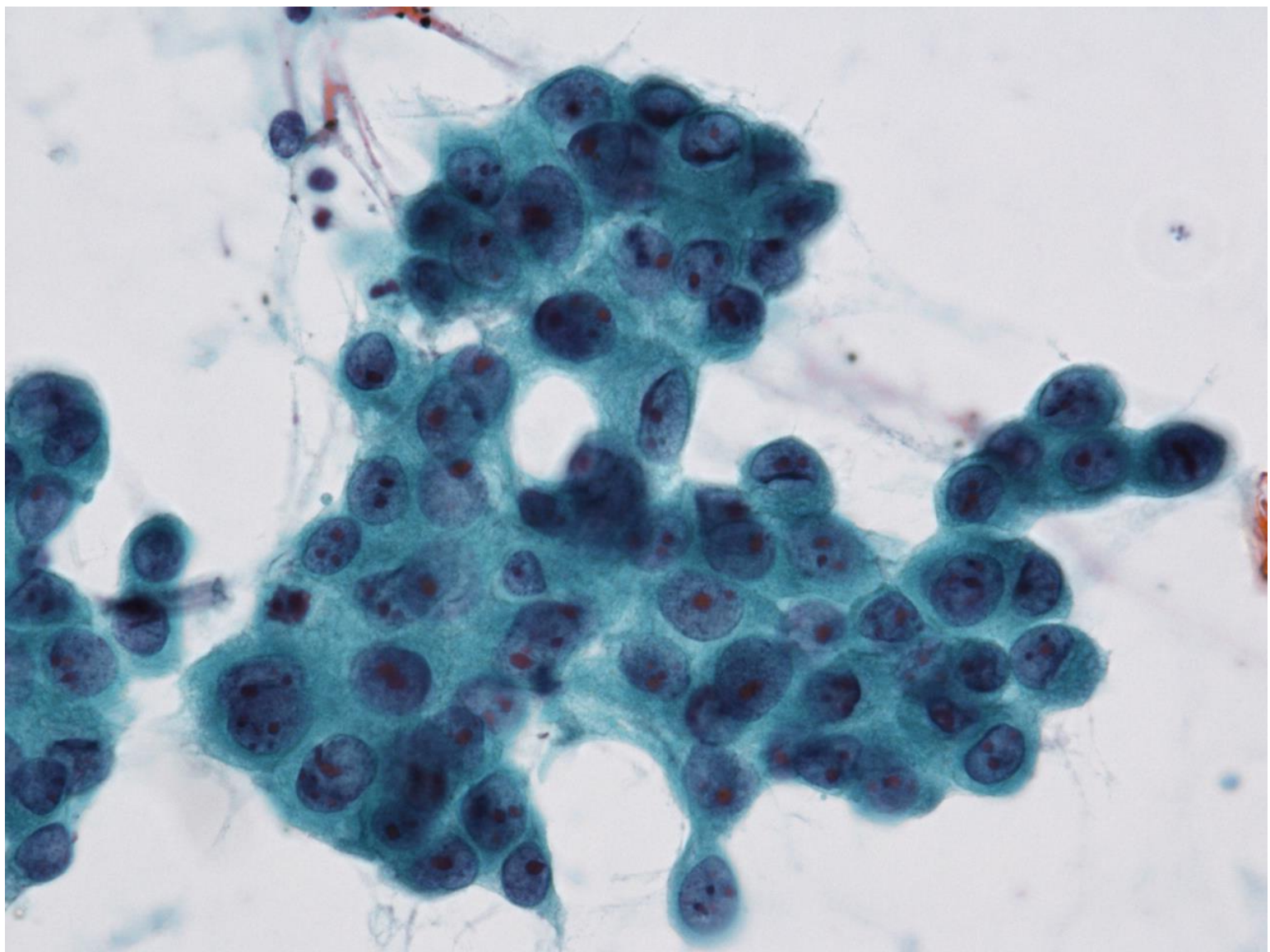


定型例 ⑧-4(擦過、腺癌、用語の一致率100%) :

大型細胞集塊の辺縁の一部では、数か所で明らかな核の突出が認められる。少なくとも数か所で、核の半分以上の突出があれば、「細胞集塊辺縁の核の突出あり」と判定する。

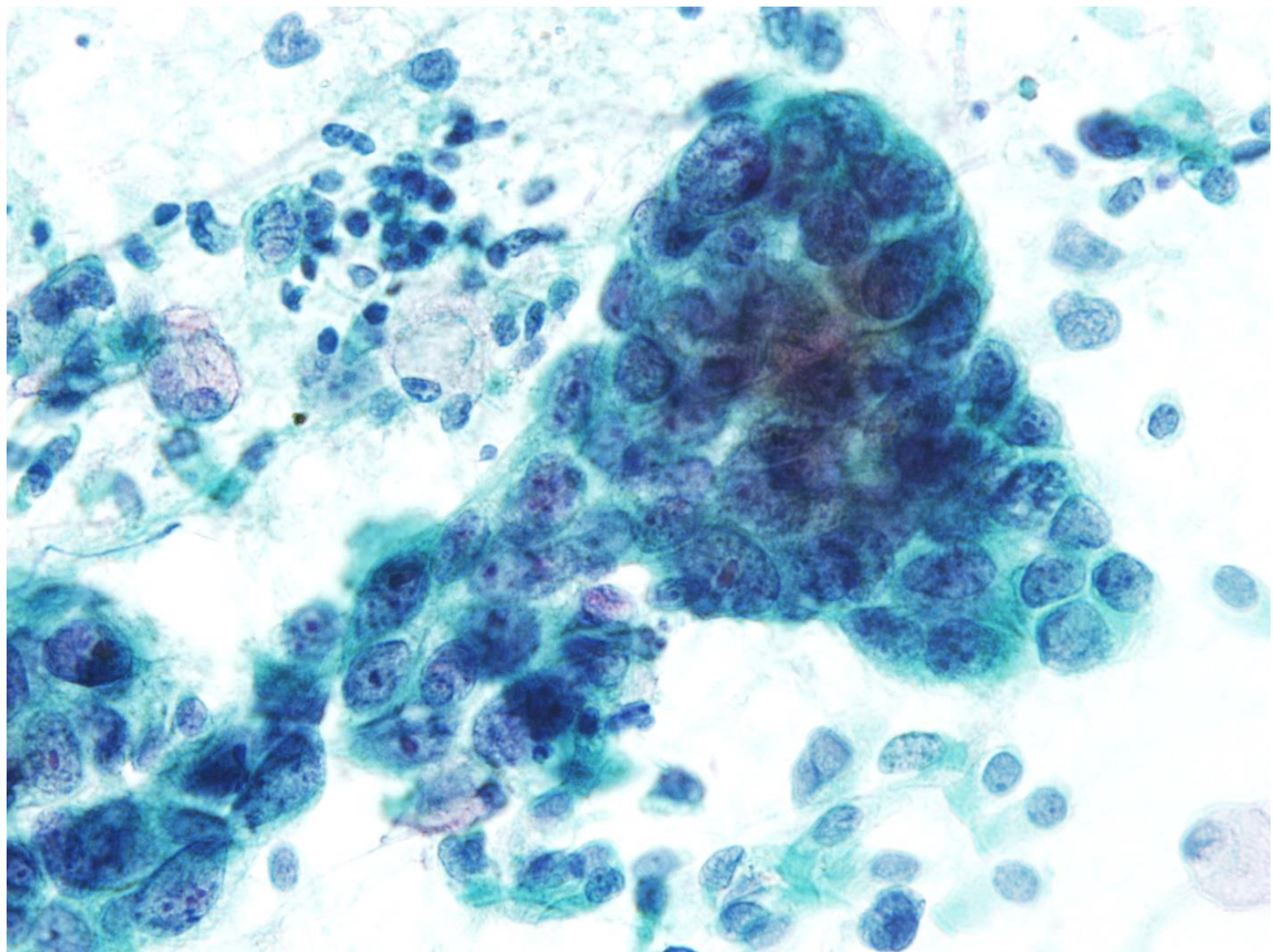


定型例 ⑧-5(擦過、扁平上皮癌、用語の一致率90%)：
重積性の著明な大型細胞集塊の辺縁では、核の突出を多数認める。腺癌との鑑別が必要であるが、「細胞集塊辺縁の核の突出あり」と判定しても、必ず別な視野の細胞所見をみて、総合的に判定することが望ましい。



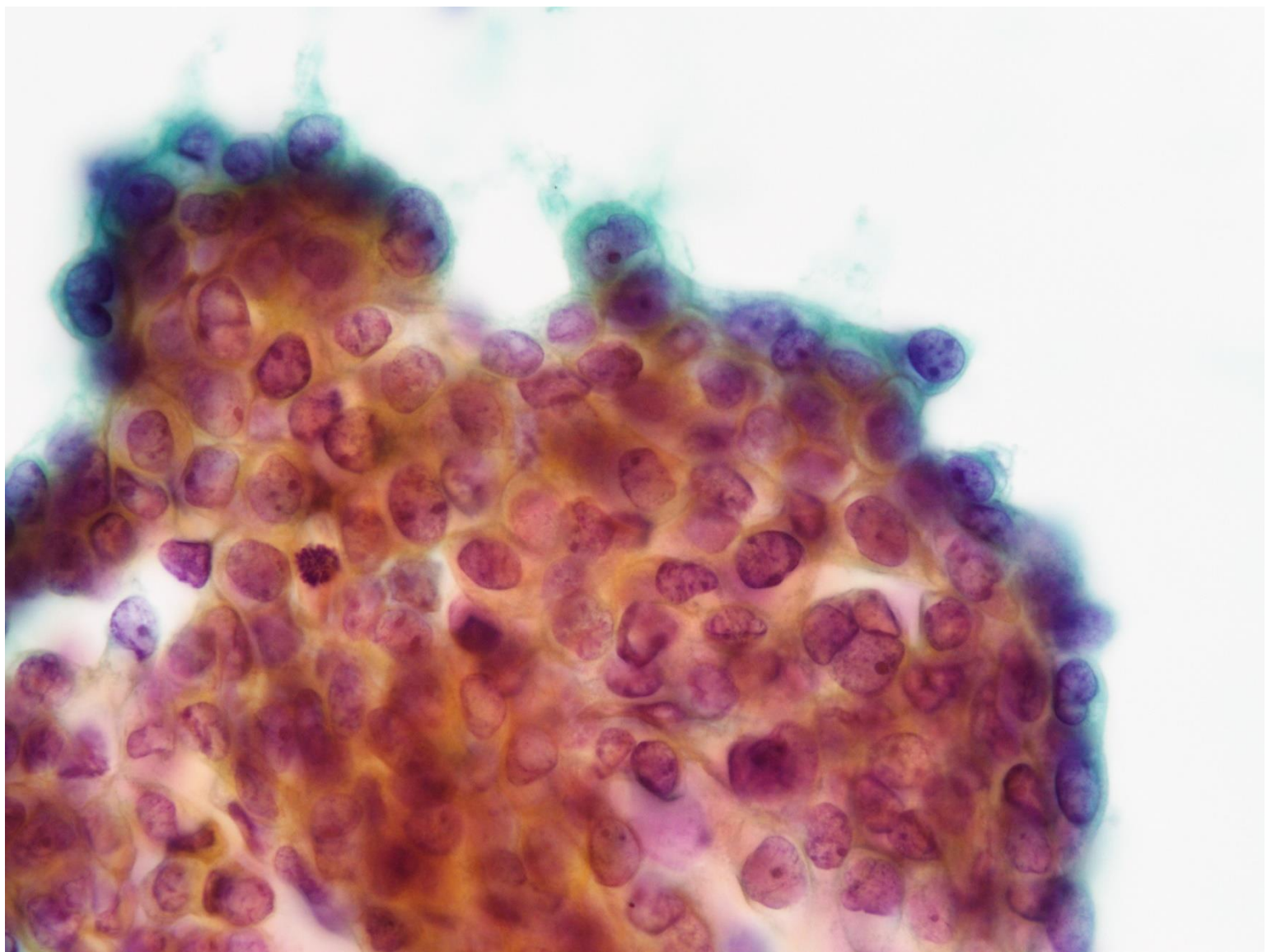
⑧-6(擦過、腺癌、用語の一致率50%) :

平面的な配列を示す中型の細胞集塊が認められる。細胞集塊の辺縁部は大部分で細胞質がみられ、核の突出は明らかではない。「細胞集塊辺縁の核の突出なし」と判定する。



⑧-7(擦過、腺癌、用語の一致率20%) :

細胞集塊の辺縁では、1~2個の細胞がごくわずかに突出しているが、この部分での核の突出は弱く、大部分では細胞質を認めるため、「細胞集塊辺縁の核の突出なし」と判定する。



⑧-8(EBUS-TBNA、腺癌、用語の一致率50%) :

大型細胞集塊の辺縁部には、全周性に細胞質が認められる。一見、数か所で突出しているように見える部分もあるが、明らかに細胞質を認めるため、「細胞集塊辺縁の核の突出なし」と判定する。